

第 3 回岩手県公共交通活性化協議会地域別部会の協議結果（報告）

地域別部会で出された主な意見等は次のとおり。

1 盛岡地域部会（平成 30 年 12 月 20 日（木）開催）

- (1) ICカードとバスロケーションシステムについては、今後必要になってくると考えるが、複数の市町村に関係する施策であることから、県にも支援をお願いしたい。
- (2) 網形成計画素案に県教育委員会の高校再編計画が掲載されているが、学級減等については確定したものではない。高校の存続に向けて、公共交通の利用促進に努力している市町村もあり、単純に計画を掲載するのではなく、表現を工夫していただきたい。

2 県南地域部会（平成 30 年 12 月 21 日（金）開催）

- (1) 高齢者だけでなく、現役世代の通学や通勤に利用されるような方向に持って行かないと、結局利用者数が減少し、負のスパイラルに陥ると思われる。
- (2) 基本方針（3）の「地域公共交通の活性化」には、利用しやすい、若しくは利用したいと思ってもらえるような環境整備が重要であり、基本方針（1）の「路線の維持確保」にも寄与する。
- (3) これから免許返納する高齢者が増えると思われるが、その方たちは車社会で生活してきたので、まずは考え方を変えてもらう必要があると思う。市町村は普及啓発も含めて取り組むので、県もバックアップをお願いしたい。意識改革することがバス路線の維持にも繋がる。

3 沿岸地域部会（平成 30 年 12 月 18 日（火）開催）

- (1) 接続拠点の環境整備については、待合環境の整備として、上屋（屋根）の設置が必要であり、県の支援をお願いしたい。

- (2) 利用促進を図るうえでは、ＩＣカードの導入やバスロケーションシステム整備など、利用環境の改善が必要だと思う。
- (3) 計画策定後に誰が担うのかが重要な部分であり、県だけではなく、市町村や各事業者等が全員で実施していく視点が非常に重要だと思う。

4 県北地域部会（平成 30 年 12 月 17 日（月）開催）

- (1) 事業の実施には財源の確保が必要となるが、計画倒れとならないように、予算の確保にも努めていく必要がある。
- (2) 市町村でも網形成計画の策定を進めているところがあるが、計画策定は地域公共交通について整理する良い機会だと感じている。